

# アメリカ発! 市民のなかに吹く風

～ THE WIND OF AMERICA 9月8日号 ～

ニューヨーク滞在 3 日目。今日は朝からハーレム地区視察組と、ニューヨークでのボランティア参加組に分かれての活動になりました。ハーレムはご存知の通り、昔は非常に治安が悪く、なかなか安心して歩くことができなかった街ですが、治安を改善するために建てられた大型ショッピングモールによってイメージアップを図る政策が取られています。今日はその様子を垣間見ることができました。

一方、ボランティア参加組も、朝から夜まで充実した中身の濃い時間を過ごし、アメリカに来て初めて一般市民ボランティアとのコミュニケーションを図りました。また NY の NPO 団体 NY de Volunteer の代表、日野さんとお酒を飲みながら熱い議論を交わし、市民の中に吹く風を感じた非常に刺激的な一日となりました。

明日早朝に帰国される佐々木（一）さん、友田さんにお別れを告げ、東京での再会を約束しました。

（吉田）

## ハーレム視察

今日は、青山さんの案内で「ハーレム」地区の視察・散策を行った。

グランドセントラル駅からの出発。地下鉄に乗りマンハッタンを北上して「125 ストリート」駅へ。ハーレム地区の町の印象は、僕たちが宿泊や食事のほとんどを過ごすエリアとは違い、生活のにおいがしたことだった。高いビルが立ち並んでいるわけでもなく、イエローキャブが競争のように走っているわけでもない。道沿いでは美容室の前でお互いの髪形を見ながら楽しそうに話をしている姿やベビーカーを押しながら行く若いカップル、おばあさんの手を引きながらバスを降りる男性。八百屋さんもある。洗濯物がずらっと並んだ窓辺や髪にカラーを巻いたまま買い物をするお母さんがいた。

僕たちは市営バスを使って更に北へ向かった。「155 ストリート」エリアへ。

ハーレム地区は嘗てとても荒廃した地域で、例えばアパートメントやビルオーナーが保険金の為に自ら火災を招くようなこともあった地区だ。今はそのような跡は見当たらない。市の政策によって町は大きく変わったのだ。政策によって犯罪の抑止や他の地区からの人の流入につながっていることが感じられた。

途中、ホームレス支援を行っている団体があり、運営する施設も見ることができた。ここにもホームレス支援という形で「人」のことを心配している人たちがいると思うと心が温かくなった。



あちらこちらで生活を示す音が聞こえてくる。「くらし」と活気が感じられる

僕たちとは異なる文化や習慣、社会感覚をもった人たちとも「仲良く」することができるだろうか。これは、この国の人々ということだけではない。

僕がハーレム地区で見かけた「人」のほとんどが黒人といわれる人たちだった。ハーレムというある種特殊な、他の地域から「偏見」という見方をされているといわれる地域にくらす人たちの笑顔をたくさん見ることができた。

ニューリンズでも多く耳にしたことだが、移民の国といわれるこの国にある人種によるくらしや社会の中での「差」を感じている。

と同時に、僕たちは全ての人に「やさしく」することができているだろうかと考えさせられる。

日本での自分のくらすその近くにいる「人」に対して、いつも「やさしく」いたいと心から想っている。

坂上幸一郎

## ニューヨークでボランティア

今日は休日でしたが、New York de Volunteer（以下、NYdeV）という在 NY の日本人にボランティア活動を紹介する団体の代表、日野紀子さんにコーディネーターと通訳をお願いし、希望者（5名）がホームレス状態の方に食事を提供する NPO 団体スूपキッチンでのボランティア活動に参加しました。

年齢も国籍も様々な方が食事を待ち望み列を作っている前で、私達は一緒に参加した NY の市民たち（雑誌の編集者、弁護士事務所の秘書、ダンサー、中学生たちなど）と一緒に約 800 食を配膳しました。

その後、The Bowery Mission というホームレスのシェルターを訪問しました。ここでは 60 名の方が寝泊りし、社会復帰を目指した 6 ヶ月間のプログラムを受けています。施設内を案内してくれた A さんもそのプログラムを受講中で、ドラッグに溺れた経験もある元ホームレスです。しかし、ここに来たのは人生で最も良い選択だったといい、人との関係が持てるようになった、若い人が自分と同じ経験をしなないようにドラッグカウンセラーになる勉強を始めるなどと話してくれました。

最後に日野さんがどんな想いで活動しているのか、マネジメントやボランティアコーディネーションなどについて話をうかがいました。9.11 の灯籠流しなど今後 2 週間で 7 つのプロジェクトを抱える中、一日お付き合いただいた日野さんに心から感謝します。ありがとうございました！

清水和良



スूपキッチンで提供される食事。活動に参加するボランティアも食べるすることができます。味は抜群！

## 最後の夜に・・・友田さんからの一言

予想通りのてんこ盛りの内容のこのツアー、こんなに多くのことを学べるツアーは他にはないでしょう。しかも内容が濃い。

一応は災害（ハリケーン・カトリーナ）に関することを中心にしたテーマでありましたが、この災害から見えてくる様々な問題は、様々な人間、コミュニティ、市、州、連邦政府などの相互間の連携が問題となり、起こるべきして起こってしまった災害であると感じた。

日本では当然、「何でそうなるの?」と思うような常識から外れたような疑問などアメリカとの文化の違いを知って初めて理解できる事も多々ありました。

現在、テレビ、インターネットなどのマスメディアによってある程度の情報が瞬間的に伝わる事が可能ですが本質的なものについては、やはり自分自身の目で見て、肌で感じなければ分からないと再確認させられたツアーでもありました。

東災ボ、連合東京 VSC のこれからの活動においても今回のアメリカのケースが即、東京に当てはまる訳ではありませんが多いに参考になった研修ツアーだったと感じました。

友田英之



セントラルパークで昼食。左が友田さん

## 日米災害 NPO 交流研修ツアー 9月8日行程

- 午前 ハーレム地区視察  
一ハーレム地区のまちづくり計画について  
一周辺地区徒歩視察  
【希望者】NY de Volunteer で活動
- 午後 自由行動



もグランドセントラル駅構内。ニューヨークでは観光

## 今後の活動へ・・・佐々木(一)さんからの一言

私が最初に青山先生から今回の研修の計画を聞いたのは、去年、別のプログラムにて先生とニューオーリンズを訪れた時だと思う。一年近く前の事なので詳細は覚えていないが、次のようなことをおっしゃったと記憶している。

「日本であろうとアメリカであろうと、大きな災害が起こった時には同じような状況が発生する。平常時、社会的に最も支援を必要としている人々が、非常時には最も犠牲になる。その人々への援助は、行政だけでは決して行えない。むしろ、ボランティア団体などの組織が果たす役割は大きい。だからこそ、日本にもNPO団体を支える社会システムが必要だし、団体自身も経営能力を磨いていく必要がある。来年は、東京災害ボランティアネットワークの人たちと一緒にここへ来て、アメリカのNPO団体が果たしている役割や経営戦略を実際に見てもらおうと思う。」

何かお手伝いが出来ることがあるかも知れないと思い、今回唯一、三宅島の支援に関わっていない者として一緒に参加させて頂いた。私の「なんちゃって」通訳では、皆さんの一言一言を正確に訳せなかった部分が多くあったが、それでもコミュニケーションが取れたのは、同じような経験をした両者の、言葉の壁を越えた共通の思いがそこにあったからだと感じた。一足先に明日、帰国させて頂くことになってしまったが、滞在中多くのことを学び、さまざまな事を考えさせられた。この経験を、今後の活動に活かすよう努力して行きたいと思う。

佐々木(一)さん



英語がまったく話せない訪問団にとって、佐々木(一)さんの存在は日毎に欠かせないものになった。左が佐々木さん

## 編集後記

この旅をともに続けてきた仲間のうち2人が、明日の朝早く日本に帰ります。

私は2人ともまったくの初対面でしたが、今は旅を通じて、ともにおなじ時間や感情を共有した、かけがえのない仲間です。さびしいですが、日本で再会するまで、しばしのお別れ。

また、スूपキッチンでお世話になった「NYでボランティア」の日野さんとの出会いは、プログラム参加者にとって非常に大きな刺激となりました。

毎日毎日、たくさんのよき人たちとの出会いと別れを繰り返しつつ、我々の旅はもう少し続きます。  
(菅野)